

ご挨拶

山梨大学合唱団 団長 小川 優佑

本日は山梨大学合唱団第 77 回定期演奏会を聞きにきてくださり、誠にありがとうございます。
ます。

合唱は複数の声部が揃わないとつくることのできない音楽です。演者は個人的な想いを歌に込めるといっても、その音を合わせていく中で、自然と湧き起こる感情を歌うという経験をします。

ただ、その音を合わせる作業がとても難しく、日々の練習は 4 つの声部の音を細かく調整して和音にすることから始まります。普段は勉強にバイトに、恋愛に、大学生としての日常を過ごす僕たちは、些細なことで自分の身体という楽器の調子が狂ってしまうのです。望む音が簡単には得られない中、粘り強く歌い続ける仲間がいて、演奏を豊かにする術を慎重に授けて下さった先生方がいます。

演者同士が互いにひとつの曲を通じて、その曲の語る情感もともに共有することができたとき、ひとつの世界が生まれます。自分がここにいるために、この音を奏でるために生まれてきたのだと分かってしまう鮮やかな瞬間が訪れます。

僕たちが歌うことに何の価値があるのかと問われても、そのような価値はないのかもしれませんが、お金になるわけでもなく、社会から必要とされるわけでもない。それでもこうして一緒に歌って過ごした時間は確かにぼくの心に残り続け、ぼくを生かしてくれています。わからない、わかり合えないことだらけの日常でも、人と繋がっていけるという感覚を与えてくれます。そして何よりも、一緒にいられて楽しかった。

そんな日々の積み重ねによってできた結晶のような演奏を、オンライン上という形であっても、皆さんに披露できることに感謝します。

僕たちの演奏が皆さんの心の中の懐かしい歌を思い出す一助となれたら幸いです。

第77回定期演奏会によせて

山梨大学合唱団 顧問 矢野 美紀

一年ほど前、私は一冊の本に出会った。整体師である片平悦子氏が体の3つの場所、すなわち横隔膜、肩甲骨、股関節を緩めることで圧迫された内臓を正しい位置に戻し、疲れない体を手に入れるためのストレッチ法を紹介した本である。横隔膜を緩める（まんべんなく伸縮させる）方法が生まれた背景には、人前で話す際に声を通らず悩んだ氏自身の経験があった。氏はその悩みを解決するために受けたボイストレーニングの先生から次のように言われたという。「多くの人は横隔膜の前側しか使っていない。後ろ側を使えるようになれば(肋骨の背中側も広がるので)さらに多くの息を吸うことができ、遠くまで声が響くようになる」と。人は体に備わった機能を万遍なく使うことで、歌を始めとした活動を存分に楽しむことができるだけでなく、自分の健康を維持し、そして歌は他者をも幸せにしてしまうのだ。しかし、何故だか我々は体の一部しか使わなくなっている。その理由の一つではないだろう。子供はいつでも走り回り大きな声を発している。そんな彼らに大人は静かにじっと座っていることを求める。科学はたくさんの物を生み、その性能は日々向上している。反面、人の機能は益々使われなくなっている。そんな時代の最中にあっても、全身で歌を楽しみ、さらなる楽しみのために日々自己の可能性に挑戦する若者の存在は我々の希望である。

無観客での演奏会となったことを最も残念に感じているのは他ならぬ団員達であろう。しかしそんな時だからこそ、歌をうたう自分自身を楽しみ、仲間との共鳴を存分に楽しむことに集中してくれるものと期待する。その響きは天と地が共鳴してくれるに違いない。



山梨大学合唱団 音楽監督兼常任指揮者 藤井 宏樹

去年の今頃、いったい誰がこのような世界になることを知っていたのでしょうか？
梨大の毎年の営みはこの演奏会を原動力として、次の力へと昇華していました。
音楽に向かい合う学生諸君の葛藤の日々はそのすべてが宝。
そうして懸命に歌い合う繋がりが、豊かな信頼の布地を織り続けていました。そこに疑いのない幸福を抱えて。
そして今は、すべてが、自由を失い俯いている・・・。

しかし、刻はやがて 過去となり、未来はその過去が土台。
ここに、かつて無い力が今日の歌声を創り、その響きの中に、やがてくる輝きが在ることを、私は信じて疑いません。
そう、この現在は糧として有るのですから。
日々懸命に対峙した諸君の今日の歌声は1つの歴史を紡ぎます。私もそこに居ることが出来て幸せでなりません。
皆さんどうか最後までお聴きいただきますように。

藤井 宏樹

山梨県出身。

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。声楽を畑中良輔、中村義春、近藤礼子の諸氏に、指揮を黒岩英臣氏に師事。

現在、全12団体（アカシアコーラス、樹の会ユースクワイア～奏(かなみ)～、女声合唱あやのね、合唱団ゆうか、クール オルタンシア、女声アンサンブル Juri、Sonus Anima、Nekko Male Choir、はるか、明治薬科大学合唱団、山梨大学合唱団、横浜国立大学混声合唱団）を有する《樹の会》、Ensemble PVDの音楽監督を務める。

全日本合唱コンクールでは12回の金賞を受賞するほか、スペイン・トロサ国際合唱コンクール、イタリア・アレッツォ国際合唱コンクールなどにおいても、1位、2位などの高い評価を得て、海外に招聘される機会も多い。

近年ではトロサ国際合唱コンクール、全日本合唱コンクール等の審査員や、全国各地で行われる合唱講習会の講師、現代作曲家への委嘱活動、21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」主催のTokyo Cantat等、各種コンサートの企画も積極的に行っている。2014年にはウィーン・ハンガリー演奏旅行を行い、ウィーン楽友協会などで日本の優れた合唱作品を紹介し好評を博した。

オーケストラとの共演も多く、東京交響楽団などとともに、ロ短調ミサ、メサイア、モーツァルト・レクイエム、フォーレ・レクイエム等数多くの演奏を指揮している。

合唱人集団「音楽樹」代表幹事。JCDA 日本合唱指揮者協会会員。



プログラム

I. 学生指揮者ステージ

指揮：寺田 昂平(学生)

無伴奏混声合唱のための愛歌曲集

「金子みすゞの八つのうた」より

1. 私と小鳥と鈴と

5. 報恩講

8. 灯籠ながし

作詩：金子 みすゞ 作曲：新実 徳英

II. 常任指揮者ステージ

指揮：藤井 宏樹

「Missa Brevis」より

1. Kyrie

4. Sanctus

5. Benedictus

6. Agnus Dei

作曲：Giovanni Pierluigi da Palestrina

無伴奏混声合唱のための愛唱曲集

『金子みすゞの八つのうた』

作詩／金子 みすゞ 作曲／新実 徳英

指揮／寺田 昂平

不誠実で横暴な夫から娘を守るため、遺書を残して自殺し、わずか26年で生涯を終えた金子みすゞ。その短い生涯で500余編もの詩を綴り、その一部は死後90年が経とうという現在も教科書に記載されるほど、私たちの心に深く語りかける優しさに溢れている。

『私と小鳥と鈴と』

自分とその他を比べ、それぞれの尊さを率直に表現し尊重する、今なお色褪せぬ優しい詩である。

『報恩講』

報恩講とは仏様に感謝する荘厳な法事のこと。しかしこの詩では、普段は寝ている夜中にみんなで集まり、顔を合わせるのが楽しくてしょうがない子どもたちが描写され、その楽しさを共感できる詩となっている。

『灯籠ながし』

死者の魂を弔うために行う灯籠ながし。この詩では、その流した灯籠をいつまでも目で追いつけているような情景が書かれている。

これらの詩に新実徳英が作曲した旋律を合わせ、それぞれの詩の訴える事柄や雰囲気をもより強く、より繊細に伝えられる合唱となっている。詩の持つ優しい力と、音楽の持つ伝える力との調和を是非ご堪能ください。

(文責:大嶽宜伸)

2nd Stage 常任指揮者ステージ

『Missa Brevis』

作曲／Giovanni Pierluigi da Palestrina

指揮／藤井 宏樹

作曲者の Palestrina は 16 世紀のイタリア・ルネサンス後期の作曲家である。本名は「Giovanni・Pierluigi」という。ローマに近いパレストリーナという地で生まれたことから「Giovanni Pierluigi da Palestrina」というように出身地による呼び方が定着した。

Palestrina は「教会音楽の父」とも呼ばれており、100 曲を超えるミサ曲、300 曲以上のモテット(ミサ曲以外のポリフォニーのこと)をはじめとする数多くの教会音楽を作曲している。

ミサ曲とは、ミサ通常文に統一性をもたせて作曲されたもののことを言い、Kyrie(憐れみの賛歌)、Gloria(栄光の賛歌)、Credo(信仰宣言)、Sanctus(感謝の賛歌)、Benedictus(祝福の賛歌)、Agnus Dei(平和の賛歌)の 6 曲によって構成される。

それぞれの曲ごとに和音の移り変わり、曲の構成が異なるため、曲に込めた想いや願いを歌詞だけでなくメロディーからも感じ取ることができる。

今回演奏するのはそのうち Kyrie、Sanctus、Benedictus、Agnus Dei の 4 曲である。

(文責: 鬼丸瑞樹)

講師紹介



五味 貴秋/ピアニスト

静岡大学教育学部音楽科卒業。

山梨大学大学院修士課程音楽科ピアノ専攻修了。

ピアノを酒匂淳、東誠三、寺嶋陸也の各氏に師事。

第 53 回山梨県芸術祭音楽部門にてピアノ演奏で最優秀賞受賞。

大学院在学時より藤井宏樹氏のもとで合唱音楽について研鑽を積んでいる。2018 年よりオペラシアターこんにゃく座の活動にピアニストとして参加。21 世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。



荻原 美城/ヴォイス・トレーナー

山梨大学教育学部音楽科卒業。二期会オペラスタジオ 3 6 期修了。ノルウェー王立音楽院のゲストスチューデントとして一年間留学。声楽を下野昇、近藤礼子、藤井宏樹、シーリ・トリュゼン各氏に師事。アンサンブルのための発声法をカール・ホグセット氏に師事。日本合唱協会やホグセット氏率いる合唱団「Grex Vocalis」などトップクラスの合唱団のソプラノメンバーとしての経験などを生かし、アンサンブルのための発声、歌唱法に独自の理論を持ち、現在は多くの合唱団の歌唱指導に力を注いでいる。また、アンサンブル歌手やソリストとしての演奏活動も行う。

2014 年 11 月に日本アコースティックレコーズよりソロ CD「歌曲の旅」をリリース。二期会会員、21 世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」幹事、事務局次長。



雨宮 昌子/ヴォイス・トレーナー

山梨県出身。山梨大学教育学部音楽科卒業。二期会オペラ研修所第 50 期修了。

声楽を藤井宏樹、下野昇、西川裕子の諸氏に、また声楽音楽におけることばの機能的役割を分析した演奏法、また指導法を藤井宏樹氏に師事。

多くの合唱団のヴォイス・トレーナーとして活躍するほか、全国各地での講習会に講師として招聘されている。

また、みずからもソロ、アンサンブル歌手としての活動を意欲的に展開しており、合唱団との共演のほか、オペラ作品への出演も多い。

21 世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」メンバー。二期会会員。



中村 響/アンサンブル・トレーナー兼ヴォイス・トレーナー

石川県出身。県立金沢二水高校より合唱音楽に触れる。東京学芸大学芸術文化課程音楽専攻（声楽）卒業。藤井宏樹氏が音楽監督を務める合唱団（通称「樹の会」）の団員として活動しながら、樹の会内外のアンサンブル・トレーナーを務める他、公立中学校の校内合唱コンクールに向けての特別講師や、イベントにおける公募合唱団の事前指導スタッフなどとしても活躍している。合唱団のエキストラメンバーとして遠征やオーケストラと共演する機会も多い。世界青少年合唱団 2011 最終オーディション合格。特定非営利活動法人「音楽で日本の笑顔を」指導員。文化庁の「文化芸術活動の継続支援事業」として、デュオリサイタル「Klang und Harmonie」を主催。



五十嵐 琴未/練習ピアニスト兼アンサンブル・トレーナー

桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）ピアノ科、桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。同大学研究科を修了。作曲を鈴木輝昭、ピアノを小森谷泉、Laurent Teycheney の各氏に師事。

2019 年度朝日作曲賞公募にて混声合唱とピアノのための組曲「よひやみ」が佳作入選。2020 年 9 月、サントリーホールにて「《櫻暁》for Japan Philharmonic Orchestra」が山田和樹氏指揮日本フィルハーモニー交響楽団により委嘱初演される。樹の会、21 世紀の合唱音楽を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。日本作曲家協議会会員。叡明高等学校合唱部トレーナー。桐朋女子高等学校音楽科教諭、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。



しま まなぶ/演出家

演出家・劇作家・俳優。岩手県北上市生まれ。宇都宮大学卒業。俳優として舞台や映像作品に出演、同時に劇作家・舞台演出家として活動の場を広げてきた。劇団やプロデュース公演による芝居を始め、合唱団によるシアターピース、合唱劇、オペラの演出、また各種コンサートや声楽家のリサイタル等、音楽分野で多数の演出を手掛けている。作演出した主な作品には、合唱劇『賢治と嘉内～銀河鉄道の二人』（作曲：寺嶋陸也）、オペラ『グスコブドリの伝記』（作曲：寺嶋陸也）、合唱のためのシアターピース『あの日の空の詩』（作曲：信長貴富）等がある。

山梨大学合唱団 学生指揮者 寺田 昂平

「今年は大変な年だった」と、多くの方が感じた一年だったかと思います。

当団でもその例にもれず、例年とは異なる事態に常に悩まされ、葛藤の日々が続いてきました。私個人としても、学生指揮者としての1年を見据えようとした矢先に見舞われた事態に、どうして今年なんだ…と先が見えなくなっていました。新入生も獲得できず、練習もままならない。そんな中で始まった春でした。

何とかオンラインでの練習を始めることができたのは初夏のころ。多くの課題を抱えながらも、今はこれが最善と自分に言い聞かせながら、騙しながら、続けて来ました。

対面での練習が許可されたのが秋のころ。まだ満足に活動することが許されていない学生団体がある中で、合唱団の日常が戻りつつあることに感謝してもしきれない思いでした。と、同時に、春には絶望的だった定期演奏会が現実になりつつあることに希望と不安が入り交じっていました。

そして、度重なる交渉を続けてこの演奏会が本当に現実になったのは2月に入ってからでした。

私はこの一年を通していかに自分が無力で、あがくことしかできないかを知りました。しかしそれができていたのは、たとえ離れていても先生方や先輩方、そして密になれるあなたがいたからこそだということを改めて、強く、実感しました。

先が見えない状況の中で歩を進めるのは簡単なことではありません。けれど、それを可能にしてくれたのはともに歩いてくれたあなたがいたからです。何度も心が折れかけ、それでも前に立つことができたのは、あなたが、私を支えてくれたからだということを知っていてほしい。

未だ歌うことを禁じられている、あるいは自粛せざるを得ない団がある中で、こうして私たちの集大成を披露することができる場と与えられたことに感謝しています。

最後に。この演奏会を見てくださった方々、当団に関わってくれた全ての皆様、本当にありがとうございます。



一年間の活動

2020年

- 3月 新型コロナウイルス感染症の流行により練習を休止
- 4月 オンラインでの新歓活動を実施
- 5月 オンラインで練習を再開
- 9月 先生方とオンラインで雑談会
- 10月 対面での練習を再開

2021年

- 1月 研コンサートのリモート合唱に参加
- 2月 第77回山梨大学合唱団定期演奏会(収録)
- 3月 第77回山梨大学合唱団定期演奏会(公開)

団員紹介

Soprano

- | | | | |
|-----------|--------|------------|--------|
| 浦本 苗奈 [辻] | (教・4年) | 天明屋 黎 [とも] | (工・4年) |
| 近藤 梢 [もけ] | (生・3年) | 鈴木 杏奈 [もな] | (生・2年) |

Alto

- | | | | |
|------------|---------|------------|--------|
| 矢野 仁恵 [あん] | (教・院2年) | 山本 千晴 [ぺこ] | (工・4年) |
| 両角 知優 [K] | (教・2年) | | |

Tenor

- | | | | |
|---------------|---------|--------------|---------|
| 矢澤 大典 [ぺいちゃん] | (工・院2年) | 山田 歩 [たけちよ] | (工・院1年) |
| 大嶽 宜伸 [ごりあて] | (工・3年) | 小林 良輔 [せつちや] | (工・2年) |
| 宮島 翔世 [チョコロ] | (教・2年) | | |

Bass

- | | | | |
|-------------|---------|-------------|--------|
| 板垣 翼 [つばさ] | (工・院2年) | 小川 優佑 [りゅう] | (医・4年) |
| 寺田 昂平 [ころん] | (教・4年) | 有岡 遼一 [らいち] | (工・3年) |
| 鬼丸 瑞樹 [たいじ] | (工・2年) | | |

学部略称：工(工学部)・教(教育人間科学部/教育学部)・生(生命環境学部)・医(医学部)